

- ・佐賀北部地域においては、担い手の高齢化や農産物価格の低迷、米政策の見直し等により**地域農業の維持が急速に困難**になっている。
- ・自家農産物の加工・販売や新たな特産品づくりによる所得拡大や**地域活性化を目指す集団や個人が増加**している。
- ・**関係機関と連携して、6次産業化等に取り組む農家の育成、起業化支援、加工を見据えた新規品目の開発**に取り組む。
- ・これらの活動により**中山間地域農業の活性化を図る**。

## 具体的な成果

## 1. 完成した商品アイテム・新規起業組織数

- 各関係機関と連携し、13組織を支援。  
その結果・・・

## ①新商品アイテム数

H26 0→1商品

H27 1→3商品

H28 3→21商品



※特にパセリパウダーと乾燥パセリは、地元6次化農家・飲食店によって、お菓子やランチメニューに使用され、看板メニューとなったため、リピーター続出。パセリ部会員の6次化への意識向上。

## ②新規起業組織数

H26 0→0組織

H27 0→2組織

H28 2→3組織



- 地元直売所や農家レストラン等で販売され、地域活性化の一端を担っている。

## 2. 加工品向け新規品目の開発

①菊芋の栽培実証による  
栽培体系の確立

## ②試験研究機関が開発した葉ワサビ

超促成栽培技術の現地普及

作付面積 0a→4.8a

生産者数 0人→2人



## 普及指導員の活動

平成26年

- 普及指導員の提案により**佐賀北部地区6次産業化担当者会議**を開催し、各関係機関が連携して6次化支援を行っていく体制を作った。その中で情報共有や、支援対象者を絞った。

平成26～28年

- 普及指導員が加工原料の栽培指導をし、農家の相談内容に応じて、関係機関とのコーディネートを図った。**

特にJAパセリ部会へは普及指導員が主体となって働きかけ、JAを始めとする各関係機関、地元6次化農家・飲食店と連携する中で、パセリ加工品から派生したメニュー開発支援をおこなった。

- 加工品目に適性のある新規品目(菊芋、葉ワサビなど)に関する試験場等と連携して探索をすすめた。**

## 普及指導員だからできたこと

・農業現場に一番近いところにいる**普及指導員だからこそ栽培技術指導をおこなう**とともに、農家ニーズに応じた**6次化支援方策を提案し、各関係機関をコーディネートし、効率的に支援をおこなう**ことができた。

・栽培技術知識を持ち、試験研究機関や他県の情報を得ることができる**普及員だからこそ、産地に適した新規品目の提案、定着が可能。**

佐賀県

## 6次産業化等に取り組む農家の育成による地域農業の活性化

活動期間：平成26～28年度

### 1. 取組の背景

佐賀北部地域においては、担い手の高齢化や農産物価格の低迷、米政策の見直し等により地域農業の維持が急速に困難になっている。そのような中、自家農産物の加工・販売や新たな特産品づくりによる所得拡大や地域活性化を目指す集団や個人が増加している。

そこで、6次産業化等に取り組む農家の育成、起業化支援に取り組むと共に、加工を見据えた新規品目の開発により、中山間地域農業の活性化を図った。

### 2. 活動内容（詳細）

#### 1) 6次産業化志向農家の育成

##### (1) 6次産業化志向農家、団体の掘り起こし

6次産業化担当者（佐賀北部6次産業化支援チーム）会議を開催し、相互の情報を交換し、6次産業化志向農家及び団体の掘り起こしをおこなった。

##### (2) 加工原料品質向上のための栽培技術支援

専門技術を持った普及センター職員が、各品目担当で加工原料の栽培技術指導をおこなった。

##### (3) 加工技術等の起業化に向けた支援

担当者会議で掘り起こした支援対象者に、普及センター、6次産業化サポートセンター、市町等が連携し、加工技術指導から流通販売に関する支援をおこなった。

#### 2) 加工向け新規品目の開発

##### (1) 新規野菜等の品目選択と栽培技術の向上

加工向けとして需要が見込まれる菊芋、葉ワサビに関して、栽培実証圃の設置及び検討会を開催した。同時に、省力管理が可能かつ加工適性の高い水田転換品目の探索をおこなった。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1) 6次産業化志向農家の育成

各関係機関と連携し、13組織を支援した結果、新商品アイテム数が21商品、新規起業組織が3組織誕生した。特にJAパセリ部会のパセリパウダーと乾燥パセリは地元6次化農家や飲食店によって、お菓子やランチメニュー等として使用され、看板メニューへと成長した。パセリ部会の販促アイテムのみならず、観光地でのご当地グルメの一端を担うことが出来つつある。

#### 2) 加工品向け新規品目の開発

菊芋に関しては、栽培実証による栽培体系の確立を図ることが出来、6次産業化サポートセンターと連携し、加工品の開発や検討、パッケージデ

ザインの検討等を経て新たな商品が生まれた。

また、葉ワサビに関しては、試験研究機関が開発した超促成栽培技術の現地普及を図ることが出来た。現状では作付面積4.8a、生産者数2名だが、水耕栽培の新たな代替品目として地域の農家が注目している。葉ワサビ加工については、県外企業とのマッチングをおこなっているところである。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

これまで6次化に関する相談をどこにしてよいかわからなかったが、普及センターに相談することで、各関係機関が連携して技術～加工指導、流通・販売の相談までのってくれるようになって、非常に助かっている。

#### 5. 普及指導員のコメント

農業現場に一番近いところにいく普及指導員だからこそ、栽培技術指導のみならず、多岐にわたる農家ニーズをくみ取り、各関係機関をコーディネートし、効率的支援をおこなうことが出来ると思う。

中山間地農業の振興に関しては、6次化以外にもまだまだ多くの課題があるが、今後も各関係機関と連携して普及活動を行っていきたい。

#### 6. 現状・今後の展開等

今後も引き続き支援をおこなうために、普及センター、市町、JA担当職員で構成する組織として「佐賀北部農業技術者連絡協議会農村ビジネス部会」を立ち上げた。そのなかで情報交換や事例調査をおこない、6次化及び農村ビジネス志向農家へ適切な支援を連携しておこなっていく。